

平成 26 年産に問題となったカンキツの病害虫防除対策(5 月号)

平成26年産のカンキツ生産では、夏季の多雨などの天候不順や一部では害虫の多発などあり、病害虫防除の面での苦労もあったかと思えます。平成27年産の防除はすでに始まっていますが、平成26年産において自園で問題となった病害虫と自身の薬剤散布をしっかりと振り返り、今年の病害虫対策に役立てて頂きたいと思えます。

黒点病

平成26年の夏季は、7月上～中旬、8月の曇天多雨のため、薬剤散布のタイミングを逃し、黒点病が多発した園もありました。

まずは伝染源の除去をしっかりと！

黒点病は、園内にある枯れ枝や剪定枝、切り株などが重要な伝染源となり果実へ感染し、発病します。枯れ枝を見つけたらその都度除去し、園外に持ち出し適切に処分してください。また、園内に剪定枝が置いてある場合には、早急に園外に持ち出し処分するとともに、切り株は肥料袋などで切り口をしっかりと覆い、伝染源にならないようにしてください。

自分の園地の降雨量を知ろう！

薬剤は、マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）を主体に散布されていると思いますが、その場合、散布後の累積降雨量が二〇〇～二五〇mmとなった時または降雨量がそれに達しなくても薬剤散布後一ヶ月が経過した時が次の散布タイミングとなります。降雨量は近い場所でも、園地ごとに異なります。簡易雨量計を設置し、自園地での降雨量を把握し、適期に防除を行いましょう。

より薬剤の効果をもたせるためには？

しかし、梅雨時期に雨の日が続いて散布できなかつたり、集中豪雨等でほんの二、三日で降雨量が二五〇mmを超えたりすることがあります。そのような場合に対応するため、マンゼブ水和剤にマシン油乳剤を加用することで、耐雨性を向上させ、散布間隔を累積降雨量三〇〇～四〇〇mmまで伸ばすことができます。マシン油乳剤は、ミカンハダニが発生し

ている場合は二〇〇倍、樹勢が低下していたり、ミカンハダニが発生していない場合は四〇〇倍で混用します。ただし、7月以降にマシン油乳剤を混用して散布すると、果実糖度低下や腐敗果増加の原因となりますので、混用は6月までとしてください。

果樹カメムシ類

平成26年は、果樹カメムシ類の越冬量は平年並みで前期の発生量も並程度でしたが、カメムシ類の餌となるヒノキ毬果の着果量がやや多かったため、新世代虫の発生がやや多く、果樹園へ飛来しました。また、チャバネアオカメムシだけでなく、ツヤアオカメムシの発生が多くなりました。

今年の状況は？

平成27年1月の調査では、チャバネアオカメムシの越冬量は平年及び前年並となっております。5月～8月上旬頃の果樹園への飛来量は平年並と予想されています。

しかし、カメムシ類の発生量が少なくても、毎年被害が発生するため、農業技術防除センターホームページ (<http://www.pref.saga.lg.jp/web/boujo>) をチェックして、今後の発生量や果樹園への飛来時期の予測を随時確認するとともに、自園をよく見回り、飛来が確認されたら早急に薬剤防除を行うようにして下さい。

ミカンサビダニ

平成26年は5～6月及び9～10月に降雨量が少なく、生育に好適な条件となったことから、一部園では多発生となりました。

防除時期は？

ミカンサビダニは、ミカンの芽で越冬し、葉の上で増殖した後に果実へと移動していくため、移動時期となる6月上～中旬頃にサンマイト水和剤三、〇〇〇倍、ハチハチフロアブル二、〇〇〇倍等を散布して、果実への被害を防ぎます。しかし、前年発生が多かった園や放任園の近くなどでは今年も発生する恐れがあるため、7月上中旬に再度薬剤散布を行い、防除を徹底します。なお、8月下旬以降に果実被害が見られた場合には早急にバロッ

クフロアブル二,〇〇〇倍、コテツフロアブル四,〇〇〇倍等を散布します。

ゴマダラカミキリ

県内全域で多発生しているわけではありませんが、一部では、発生が多い所もみられました。

ゴマダラカミキリは幼虫が樹の中に入ってしまうと薬剤がかからず、防除が非常に困難になってしまうので、成虫発生時期～幼虫の食入前までの防除を徹底します。6月と7月の2回の基幹防除時期にダントツ水溶剤二,〇〇〇倍、モスピランSL液剤二,〇〇〇倍、エルサン乳剤一,〇〇〇倍、スプラサイド乳剤40一,五〇〇倍等のいずれかをしっかりと散布してください。万一幼虫による被害が確認された場合は、捕殺してください。

ハウスミカンのミカンハダニ

ハウスミカンでは、「農薬をかけてもなかなかダニが減らない！」と防除に苦慮されているところもあるかと思います。ミカンハダニは薬剤感受性の低下が早く、ミカンハダニに効果の高い薬剤が少ないのが現状です。

防除のポイントは？

①ビニル被覆時までに密度を下げる・・・収穫終了後に、オマイト水和剤七五〇倍を一回またはエコピタ液剤二〇〇倍かアカリタッチ乳剤二,〇〇〇を10日間隔で二回散布します。次に、ビニル被覆一か月前頃に、マシン油乳剤二〇〇倍一回またはエコピタ液剤二〇〇倍を10日間隔で2回散布します。被覆直前、直後はコロマイト水和剤二,〇〇〇倍やオマイト水和剤七五〇倍、モレスタン水和剤一,〇〇〇等を散布します。この時期までの防除を徹底して、加温以降の発生を抑えるようにしてください。

②極低密度時に薬剤を散布する・・・ハウス栽培は、雨の影響がないこと、冬場もあたたかいこと、天敵類の発生が少ないことなどから、ミカンハダニにとって非常に増殖しやすい条件となっています。防除のタイミングが遅れてしまうと、密度が急激に高まり、十分な防除効果を得ることができません。発生を確認したら、早急にバロックフロアブル二,

〇〇〇倍、スターマイトフロアブル二〜三, 〇〇〇倍、ダニコングフロアブル二, 〇〇〇倍等のいずれかを散布します。前記の殺ダニ剤は3剤とも年1回しか使用できませんが、他の殺ダニ剤についても使用は一年に1回までとし、感受性の低下を防止します。単剤と同じ成分が入った混合剤とがある場合は、ラベルをよく見て、使用回数に注意して使うようにして下さい。

なお、完全着色期以降にミカンハダニの発生が問題となった場合には、ダニエモン水和剤四, 〇〇〇倍か粘着くん水和剤五〇〇倍を散布して対応して下さい。

病虫害の防除は、基本的なことが最も重要です。病虫害の急な発生や天候不順などにより防除対策が後手に回らないよう、

○伝染源、発生源を除去して発生量を少なくする

○自分の園地をよく確認して、発生初期に防除を徹底する

○防除タイミングに適切に薬剤散布ができるよう、早め早めに準備する

等を常にこころがけて、高品質果実の生産に努めてください。